

夢みるユメコのひとりごと

なかがわともこ
宝塚市長(兵庫県) 中川智子
Tomoko Nakagawa



歌劇のまち 宝塚

世界に誇る宝塚歌劇団のおかげで、ま
ちの知名度は抜群、また、連日「夢の舞台」
へのお客さまが引きも切らず、駅から大
劇場に続く「花のみち」を、心はすでに舞台
に飛んでいるような、晴れやかで、ワクワ
ク感じっぱいの笑顔で歩いていかれます。
しかし、「近いからいつでも見られる」と
思いがちの市民の観劇率が低いことが課
題でした。何とかしなければ……。そこ
で、歌劇100周年、市制60周年を迎え
た5年前から、年に一度「市民
貸切公演」を実施。通常のチ
ケット代が割安になり、抽選
で日頃は座ることが超困難な
最前列の席が当たる、という
夢のような日。この市民特別
デーは歌劇場もいつもとは雰
囲気がガラリと変わり、3世
代で、初めて見に来ましたと
いうファミリーなど、家族連
れで大にぎわいです。そして
私は夢の舞台で「あいさつ」。
「このまちの市長で本当に良
かった！」歌劇ファンとして、
まさに市長冥利に尽きます。
100周年で大いに盛り上
がった歌劇は、その後も順調
に推移していますが、私が切



駅から宝塚大劇場に続く「花のみち」

望するのは、エンターテインメント日本
一の舞台を10代の若い世代にもっと見て
もらいたいです。少し前までは「タカラ
ジェンヌ」を目指したきっかけは、「修学
旅行で見たから」がトップだったのです
が、今は修学旅行が激減しています。若
い日々には本物の作品を見て心が震える体
験は貴重です。どうぞ皆さま「夢を探しに
宝塚へ！」

大切な言葉たち

「座右の銘」というものは特にありません

が、大切にしている言葉がいくつかありま
す。私の義母であるトワ子さんは新聞を読
むことの大切さを教えてくれました。

もう30年以上も前のこと。ある朝私が
新聞を読んでいると突然、「智子さん、あ
なたは新聞を開くと、まずマンガを見て、
次にテレビ欄を丁寧に見て、それからサ
ラッと社会面。どうして一面を読まない
の？」とズバッと言われました。私はあた
ふたしてしまい「あー、時間もないし、
エーっと」と言い訳をしかけると、ピシッ
と言われました。「まず一面をしつかり読
みなさい。社会や政治の動きに敏感になら
なければ、親は子を守れない。あの悲惨な
戦争がいつまた繰り返されるかもしれな
いのよ。戦争だけは絶対に駄目。子どもを
守るのが親の務めでしょ。そのためには親
は賢くなければいけないの。新聞だって真
実を書かなくなることもあるのだから、そ
れを見抜く力も持たないとね」

いつも穏やかなトワ子さんのあの時の
必死な顔は忘れられません。素直な私は、
それ以来、まず一面からしつかり新聞を
読んでいます。

政治家野中広務さんを私は心から尊敬
し、師と仰ぎ、困った時は何でも相談し
ました。10年前、市長選への出馬に迷っ
た時に言われた言葉です。「自治体の首長
は素晴らしい仕事だ。まちをつくること
ができるんだからね。人々が安心して幸



恩師 野中 広務さんと(宝塚市役所にて)

せに暮らせるまちづくりの先頭に立てるんだよ。きつと勝って良い宝塚をつくりなさい」仕事で辛い時、私は野中さんのこの言葉を思い出します。

長年連れ添った夫の戒めの言葉。

「はしやぎすぎたらダメだよ」

「身の丈で生きることが大事。わかっているかい？身の丈だよ」

大切な言葉を遺してくれた3人は、私より先に旅立ってしまいました。死者は生者の中に生きている…。そのことを実感します。

朝4時に起きねば！

どうしてそんなことを言われたのか今もって謎ですが、学生時代にヒョンなことから寺山修司さんに出会い、「君は役者に向いているよ。天井桟敷に入りなさいよ」としきりに勧められました。

作家になりたい、と漠然と想着ていましたが、役者なんて無理。「とんでもないです」と断りました。しかし、若くして亡くなった彼の評価は高まるばかり。友人たちに「実は…」とそのエピソードを話すと、「すごい！」と何故かみんな驚くので、私はいまだに数少ない自慢話に「実は…」と喜々として語っています。そのせいかどうか、今でも芝居を見るのが大好きです。偶然、私の友人に堤真一さんの母がいて、生瀬勝久さんの母がいます。お二人の大阪での公演はめったに見ることはできませんが、演劇は大好きです。この度、豊岡市に平田オリザさんが拠点を移しますが、新たな舞台の幕開けにワクワクしています。

「作家になりたい。芥川賞取りたい」の夢はまだあきらめていません。しかし、書かないことには応募すらできません。時間が無いから、なんて言い訳はしたくないのです。

「明日から朝4時に起きて書くぞー」と、毎晩決意して寝ます。でも、眠くて起き

られない…。わが身のふがいなさに毎朝落胆しています。

ちなみに私がお手本として愛読している作家は、太宰治、村田喜代子、村上春樹、そして須賀敦子。今年の芥川賞受賞者の今村夏子さんもすごいなあと、今はせつせと「こちらあみ子」を読んで勉強しています。



宝塚大劇場と花のみち